

令和 6 年度学校評価 自己評価実施報告

栃木県立小山高等学校

目指す学校像	○ 自主的かつ根気強く学習に取り組み、希望する進路の実現に向けて努力できる生徒を育成する学校 ○ 学習や部活動等に意欲的に取り組み、文武両道の実践を通して自己の能力を最大限発揮できる生徒を育成する学校 ○ 学校生活全体を通して、新しい時代を切り拓き、社会のリーダーとして活躍できる生徒を育成する学校
--------	---

本年度努力点	1 【進路実現に向けた連携強化】 生徒のよりよい進路実現に向けた進路指導部・学習指導部・各学年の密接な連携 2 【生徒指導・生徒支援体制づくり】 多様化する生徒に対し、早期に、きめ細かく、組織的に指導・支援できる体制づくり 3 【文武両道の推進】 学習と特別活動（部活動・生徒会活動・ボランティア活動等）が互いに相乗効果をもたらす計画の策定と実践 4 【風通しのよい職場づくり】 教職員が学校課題等について活発に話し合い、協働して取り組める職場環境づくり
--------	--

今年度の重点目標と努力点		今年度の取り組み	自己評価	今後の改善方策等
目 標 ①	安心・安全な学校環境のもと、学力の向上と希望進路実現を可能とする組織力の強化 1. 「小山高校進路探究プログラム」の実施による探究力と進路意識の向上（学習指導部） 2. 進路行事・キャリア教育の質的向上及び「小山高校進路探究プログラム」等の実施に際しての学習指導部・学年との連携・協力・改善（進路指導部） 3. 探究学習活動の充実（理数教育推進部）	1. 「小山高校進路探究プログラム」において、事前探究学習、大学でのインターンシップを実施し、生徒は成果・活動内容をまとめて発表・報告した。今年度は連携した大学担当者にも発表を披露し、講評をいただいた。また3年生については2年次のプログラムの成果を基に「学びの設計図」を作成した。 2. 1年生対象の行事では文理選択を主軸に置きながらアクティブラーニング型キャリア教育や大学見学会、進路講演会などを体系的に企画し、学年と協力して運営することができた。「小山高校進路探究プログラム」は開始から6年目を迎え、運営についてのノウハウが確立され、スムーズな運営ができた。 3. 新たに横浜薬科大学と高大連携を結び、東京都市大学、日本工業大学と協力し課題研究を実施することができた。オンラインの活用により大学の指導者との連携を円滑にすることができた。	B	1. 進路探究の成果を進路実現に生かす指導を目指す。また成果発表については、学校行事として外部に発信できるようにしたい。 2. 「小山高校進路探究プログラム」をさらに充実させるため、本格的な運営となる2学年の事前・事後となる1年次・3年次の探究活動をさらに充実させていきたい。 3. 大学との連携を一層強め、「理数探究基礎」、「課題研究」、「実験講座」や「特別授業」のさらなる充実を図りたい。
目 標 ②	「知・徳・体」のバランスのとれた生徒の育成 1. 特別活動（学校行事や部活動など）の内容の見直し及び限られた中での効率的な活動の推進（特活指導部） 2. 高校生マナーアップ運動の推進（生徒指導部） 3. 心身の健康と感染症対策の徹底（健康指導部）	1. 行事については熱中症対策を優先的に考慮し、コロナ前の通常内容での実施で行事の計画を行った。また、部活動の精選についても顧問会議で話し合いを行った。 2. 交通については、小山警察署と連携してスケアードストレート講習を実施し、自転車の「ながらスマホ」が罰則強化（改正道路交通法 24 年 11 月から）や事故の未然防止対策について指導した。公共の場での過ごし方、スマホの使用については随時講話等を通して指導した。 3. 感染症対策として昇降口にアルコールを常設した。季節性感染症対策としてアルコール消毒と換気を励行した。カウンセリングを必要とする生徒への対応が教育相談の係と連携して速やかに行えた。う歯未処置者に対して保健だよりや受信勧告書により受診を促した。	B	1. 今後も熱中症対策に配慮しながら、行事の内容、公開時の規模などを検討し計画を策定する。また、部活動についても顧問会議を開き多くの意見を取り入れて行きたい。 2. ヘルメット着用率を向上させること、事故をゼロに近づけることが喫緊の課題である。また、SNS 絡みのトラブルが多いので、人権問題を考えさせ主権者としてのモラルやマナーに対する規範意識を向上させる。 3. 感染症対策は年間を通じて保健だよりを活用し手指消毒・換気指導を行う。う歯未処置者に対しては受診勧告書・保健だよりを通じて受診を促す。昼休みに歯磨きを励行する。
目 標 ③	保護者や地域に信頼される、選ばれる小山高校の構築 1. 継続的な学校評価を実施し、地域に対する広報活動の充実（教務部） 2. 保護者から信頼される P T A 活動の実践（生涯学習部）	1. これまで通りに学校評価を実施するとともに、今年度新たに発足した地域連携協議会においても情報交換を行い様々なご意見を頂いた。学校ホームページによる広報活動も継続的に行っている。小学生を本校に招き入れているIXワークショップも実施した。 2. 保護者とのより良い関係が構築できたと思われる。今後も保護者からの意見を参考によりよく改善していきたい。	B	1. 評価を受けての検討をしっかりと行うとともに、学校ホームページによる広報活動の充実を図る。 2. 保護者宛通知文が HP やメールで閲覧できるようにし、学校と保護者が繋がるようにする。

自己評価基準 A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力が必要